

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年9月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300765
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム 上祓川
所在地	鹿児島県鹿屋市上祓川町8469番地1 (電話) 0994-40-5130
自己評価作成日	令和1年7月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和1年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「住み慣れた地域の中で～笑顔で満足あきらめない～」を理念に掲げ、少しでも出来る可能性に注目し、利用者様が自分で何かひとつでもできるようになる事で、自信や喜びに繋がり自立した生活に近付けることが出来るようチームで話し合いケアに取り組んでいる。また、地域との繋がりを大切にし、日常的な近隣への散歩はもちろん、地域の行事などにも参加し交流を図っている。

・福祉用具や介護用品を取り扱う会社が母体であり、利用者の方に応じた車椅子の選定や、エアマットなどのレンタルにおいても専門的な意見を聞きながら、安全で快適に過ごせるように対応している。

・加齢や持病の悪化などで、状態が重症化した場合でも、利用者様や御家族の望む暮らしを支える事ができるように、ホームでの体制や対応を検討し、また、主治医や医療機関、その他の関係機関と連携を図りながら対応を行っている。

・当事業所は、運営母体会社に隣接し、系列のグループホームとは、毎月の学習会や行事を合同で実施する等、円滑な相互の協力関係を構築している。

・運営母体会社では福祉用具や介護用品を取り扱っており、利用者の必要に応じた車椅子や排泄用品を適切に選定できる環境にある。

・自治会に加入し、地域行事への参加や近隣商店の利用等、地域の一員として暮らしており、近隣住民から野菜や花等の差し入れもある。運営推進会議に自治会長や消防団長の参加があり、事業所運営に地域の協力を得ている。

・職員の質向上を図るために地区の連絡協議会の研修会受講や資格取得を勧め、資格手当を設けて職員の意欲ややりがいに繋げている。

・職員の提案を受け休憩時間を設定するなど、就業環境の整備にも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で、笑顔で満足あきらめない」を理念に掲げ、ミーティングや学習会の中でも理念について取り上げている。ホーム内にも掲示し、入職した職員も意識できるようにしている。	開設時に作った理念を、重要事項説明書及びパンフレットに記載し、事業所内のホールにも掲示している。学習会及びミーティング時に、理念を確認すると共にケアの振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（棒踊り/八月踊り）などに参加したり、町内の有人販売所や商店などへの買い物や散歩などを通して、日常的に交流が図れるように努めている。	町内会に加入し、地域の棒踊りや八月踊りへの参加・地域の商店の利用・散歩時の挨拶など、日常的に地域と交流を図っている。ボランティアを受け入れたり、住民からの野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入居希望の相談時には、サービス内容や特徴などを説明して、その時の御家族の状況や要望に合わせて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>1回/2ヶ月運営推進会議を開催し、市職員、消防団長、民生委員、家族代表、法人代表などが出席し、運営の状況や入居者の様子、事故などの報告を行っている。会議内容について意見や助言を頂いた事は、ミーティングなどでも、職員へ周知し活かせるようにしている。</p>	<p>2ヶ月毎の運営推進会議では、事業所からのヒヤリハットを含めた報告や意見交換を実施している。事業所で取り組んでいるケアの情報提供をしたり、参加者からの助言を災害時の避難訓練等に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業所内で判断が困難な事や、事故発生時など、その都度連絡を行い相談を行っている。運営推進会議にも参加して頂き、施設の状況なども理解してもらえようように努めている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換やメール、出向いての報告等で密に連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築いている。市の研修会にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止マニュアルがあり、職員は学習会や外部研修に参加し、身体拘束について学習している。昼間は施錠せずに、外に出られる利用者の方においては、付き添うなどの対応を行っている。運営推進会議の中でも取り上げ、不適切なケアにならない様注意している。</p>	<p>指針が有り、毎月委員会を実施し運営推進会議時に報告している。年2回の内外研修を実施し、特にスピーチロックについて、直接注意する他、ミーティング時に取り上げて注意を促している。日中は施錠せず、見守りや付き添っての散歩で対応し、制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関する研修や学習会などでもテーマで取り上げ、職員が理解できるようにしている。また、ミーティング時にも日頃のケアを通して不適切な場面がないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修などに参加し権利擁護や後見人制度について学ぶ機会を設けているが機会が少ない。学習会などでも、テーマとして取り上げ学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分時間をかけて契約書に基づき説明を行っている。利用料金や契約解除の取り決め、起こりえるリスク面についても予め説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方からは、日々の関わりの中で本人の想いや意見を把握するように努めている。年2回の家族参加の行事の際や面会時には、入居者の方の様子などを報告しながら、ご家族の意見や要望を頂けるように声かけを行っている。	本人には日常生活の中で意見等を聞いている。家族には、運営推進会議や行事参加時及び面会時に、近況報告と共に要望等を聞いている。「買い物等の外出をさせて欲しい」との要望があり、本人の思いを聞きながら外出の機会を設けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ミーティングを行っており、管理者はその際にスタッフの意見や要望を聞くようにしている。また、必要な要望や提案などは、代表者へ報告を行っている。	管理者は、毎月ミーティング時に提案等を聞く機会を設けており、業務配分を工夫して休憩時間を設定する等、働きやすい職場環境の整備にも活かしている。個別相談は、日常的に管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格に応じての手当もあり、資格取得への意欲や、やりがいに繋がっている。勤務については、職員の要望に応じて許せる限り柔軟に調整を行い、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で年間計画に基づいて、学習会を開催し、グループワークなどを通して同法人内の施設職員と一緒に学び、知識や技術の向上に努めている。大隅地区介護事業所連絡協議会主催の研修に交代で参加し、研修に参加していない職員も情報の共有が図れるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での学習会や大隅地区介護事業所連絡協議会などの研修会に参加するなど、交流の機会を作り、お互いの悩みやサービスの質の向上に向けて意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点で、可能であれば本人やご家族へ見学に来て頂いたり、入院中であれば面会などを通して、本人の状況や要望や不安などを確認し、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際に、ご家族の困りごとや状況を確認し、要望に沿えるように話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅介護が困難となると施設を希望されるケースが多いが、本人やご家族の状況を確認し、在宅サービスや他サービスなども含め検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の能力に応じて、家事など出来る部分は一緒に行い、出来ない部分はお互いに協力しあって生活することを意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での本人の生活状況などを、こまめにご家族へ伝え本人が望む暮らしに近づけることができるように職員とご家族で協力している。外出や外泊、電話をかけるなどの協力を頂くことも多くある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で生活していた頃の、知人や友人の訪問があったりと、気軽に訪問して頂けるような雰囲気作りなどを行い、関係性が維持できるように支援している。	家族や知人の面会時はお茶を出す等、いつでも来てもらえる雰囲気作りをしている。家族の協力で買い物や自宅訪問に出かけたり、年賀状や暑中見舞い・電話取り次ぎ等を支援し、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がお互いにゆっくり過ごせるような、テーブル配置を行っている。お茶や食事の際は、交流が図れるように、話題の提供や雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、施設に來られたり、相談に來られるケースもあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で意思表示できる方は、話を聞き要望に沿えるように対応している。意思疎通が困難な方は、ご家族からの情報を得たり、日々の関わりの中での言動や表情から組み取るように努めている。	日常の会話で思い等を聞き取るように努めている。困難な場合は、これまでの関わりの中から推測したり、家族からの情報を参考に本人の思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族やご本人より生活情報を尋ねたり、関係者より情報提供を頂くなど、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルに合わせて、就寝や起床、食事や入浴時間など要望に応じて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を確認し、主治医の意見も確認しながら計画書を作成している。スタッフと一緒に定期的にモニタリングを行い、状態変化時は見直しを行っている。	面会時等に担当者会議を実施し、出された本人・家族の要望等を基に、職員の意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、見直しは6ヶ月毎及び状況変化等の必要時に介護計画を見直ししている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に記録を行い、体調面や食事、排泄、水分などを記入。また、本人の様子や変化、職員の対応なども記録に残し介護計画の見直しに活かせるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況に応じて、買物や送迎などを随時行っている。また、ホーム看護師で受診介助を行ったり、入退院時の支援も実施している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議の委員の中に、消防団長、民生委員、町内会長などの参加があり、情報や意見交換などを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や御家族が希望する医療機関を受診したり、入居者の状況によっては、訪問診療を受けられるように支援している。主治医への情報提供や相談など、連携を図り適切な医療を定期的を受けられるようにしている。</p>	<p>契約時に本人・家族の希望するかかりつけ医を確認している。希望で、月1回の訪問診療の利用者もいる。協力医療機関との24時間医療連携及びかかりつけ医との連携により、適切な医療を受けられるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置しており、医療連携体制がある。毎日の健康状態の確認などを実施し、変化に気付いた際は報告を行い、必要時は受診をするなどの対応を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、必要な情報提供を行い、入院中は面会や医療機関の医療相談員より状況を把握するように努めている。入居者の身体状況や病状は安定した状態で早期に退院が出来るように連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の指針について、契約時に説明し同意を頂いている。重度化した際は、本人、ご家族の意向を確認し、主治医やその他訪問看護ステーションなどの関係機関との連携を図りチームで支援している。</p>	<p>契約時に指針を説明し、同意書を得られている。重度化等の場合、主治医から家族への説明時に立ち会い、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って、医師・訪問看護師との連携を図って看取り介護に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、普通救命講習や学習会などで、急変時の対応や応急処置の方法を学習している。また、AEDの設置も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防火訓練など消防署立ち合いの下、夜間想定で実施。災害時の備蓄品なども、毎月確認を行い補充している。運営推進会議でも、テーマとして取り上げ、アドバイスや協力を頂けるように努めている。</p>	<p>年2回の避難訓練を夜間想定で実施し、消防署または消防団の立ち合いがあり、運営推進会議参加者の協力を得ている。緊急通報装置に町内会長及び消防団長の登録があり、地域との協力体制を築いている。災害時の備蓄は、水・米・レトルト食品・かゆ等の食料及びカセットコンロ・ヘルメット・簡易トイレ等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を損ねることの無いように、また、入浴や排泄介助の場面では、特にプライバシーの確保の徹底に注意している。	内外研修に参加し、名前をさん付けで呼びかけ、入室時及び介助時に声掛けする等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。職員との申し送り時は、イニシャルを用いてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の日課は概ね決まっているが、個人の生活スタイルや意思を尊重し臨機応変に対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや状況に応じて、職員の都合とならないように意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人で着る服を選択したり、定期的に散髪や毛染めをするなど、身だしなみを整えたりおしゃれを楽しめるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態にあった食事形態で提供している。食事や水分摂取量を確認し、摂取が進まない方には、本人の好物を取り入れたりしている。食事の際も、職員もテーブルと一緒に着き、楽しい時間になるように雰囲気作りを行っている。	調理担当職員が、個々に応じた食事形態で提供している。下ごしらえやテーブル拭きを利用者も一緒に行い、職員と食事を摂っている。誕生日のケーキや季節の行事食・遠足の弁当・敬老会やクリスマス会の家族との会食も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分量を確認し、職員が把握できるように記録している。水分摂取が困難な方には、ゼリーやアイスを提供したり、場合によっては栄養補助食品を取り入れたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを実施している。自分でできる方は実施して頂き、1日1回は職員で磨き清潔保持に努めている。また、口腔内の観察も行い、異常がないか確認している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努めている。安易におむつは使用せず、時間誘導などを行い可能な限りトイレで排泄することを支援している。おむつ類の使用においては、本人に合った種類などを検討し選択するようにしている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握している。昼間は布パンツと尿取りパットを使用し、トイレでの排泄を基本に支援している。夜間はポータブルトイレやオムツ・パット交換等も身体状況に応じて使用しており、パット等は個々人に適切な物を選択している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、食事の中で献立の工夫を行ったり、適度な運動の実施、日常的に立ち座りの場面を作り、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を楽しみにされる方が多く、毎日実施している。出来るだけ本人の希望される時間や順番に実施できるように努めている。浴室はリフトを設置しており、重度の入居者の方も安全に安心して浴槽に入ることができる。	毎日午後に入浴しており、ほとんどリフト浴で、利用者・介護者共、負担が少なく浴槽でゆっくりと入浴している。必要に応じて清拭や失禁時の入浴も実施している。入浴を嫌がる場合は無理強いせず、翌日にしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望時間に就寝していただいている。夜間眠れない方は、職員と一緒に過ごすなど落ち着いて過ごせるようにしている。昼間は活動を促し、生活のリズムを整えて過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員で管理し、薬の内容については薬剤管理情報のファイルにて確認できるようにしている。誤薬が無いように、職員2人で確認するなど服薬のマニュアルに沿って実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味のあることや楽しみを理解し、実施できるように支援している。家事では洗濯物畳や調理など出来る範囲で手伝い頂いている。散歩や塗り絵、計算、音楽などを個々に選択し取り組まれている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	御家族と一緒に買い物やドライブを楽しまれたり、日常的にホーム周辺の散歩などを実施している。紫陽花やヒマワリ、コスモスなど季節の花をドライブを兼ねて見に外出など行っている。	日常的に周辺の散歩や買い物に出かけている。年間計画で、初詣や季節の花見・遠足等に出かけており、その日の状況で数人のドライブも実施している。家族と買い物等で外出する利用者もいる。可能な限り出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理している人は居ないが、本人が可能であれば買い物に出かけたり受診時に支払いをして頂くなどの場面作りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の中には、携帯電話を使用される方もおり、随時会話できる状況がある。また、電話の要求がある方も、制限なくやり取りができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節を感じられるような装飾を行っている。炊事場より、食事の支度の物音や匂いなど生活感を感じられるようになっている。室温や湿度も定期的に確認し快適に過ごせるように努めている。	リビングは畳スペースやソファコーナーがあり、ゆったりした広さである。明るさや室温等が適度に調節された室内で、利用者が思い思いの場所で過ごせるように努め、壁に飾られた季節の作品やウッドデッキでの外気浴等で、季節を感じられるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分たちで好きな場所に座り、気の合う同士で、話や一緒にテレビを見たりされている。和室のスペースもあり、足を伸ばしたり寛げるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅より馴染みのものを持参され、ご家族が面会時に使用するテーブルや椅子を置かれたり、ご家族の写真を飾ったりなど、本人が心地よく過ごせるように工夫している。	居室には電動ベッドやクローゼット・エアコンがあり、寝具はリースである。本人の使い慣れたタンス等の家具を置いたり、位牌や写真・人形・ぬいぐるみ等を身近に飾って、本人らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場など、入り口の表記や居室前に自分の写真を掲示することで、場所の認識ができるようにしている。家事などの場面でも、車いすに座ったままでも、洗濯物を干したり、テーブルで調理に参加するなど、出来る事を維持できるように努めている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない